

# 5

## 家の中でも気をつけて

### 一人留守番の危険性

できれば避けたい子ども一人だけの留守番。しかし、家庭の状況によっては、どうしても子ども一人で留守番ということもあると思います。電話やインターホンを使って家人の不在を確認する犯罪の手口は多くあります。子どもを残して家を出るときは、他人に子どもしかいないことを悟らせてはいけません。

留守番中の対応については、子どもの性格、成長の度合い、住環境などによって、何が最善の方法かが変わってきます。家に入るとき、インターホンが鳴ったとき、電話が鳴ったとき、また、鍵をなくしたらどうするのかなど、実際に起こり得る場面を想定して家庭でよく話し合って最善策を決めておきます。いざというときに、子どもが行動できるよう指導を行うことが必要です。

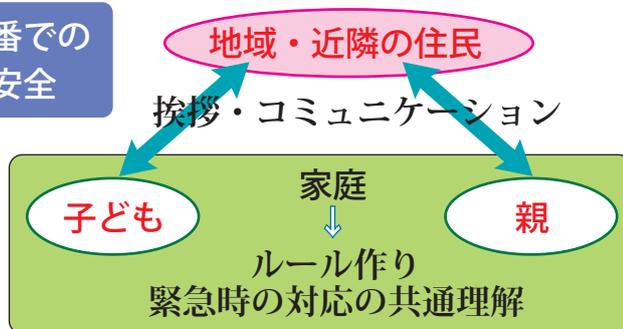
留守番中の対応については、子どもの性格、成長の度合い、住環境などによって、何が最善の方法かが変わってきます。家に入るとき、インターホンが鳴ったとき、電話が鳴ったとき、また、鍵をなくしたらどうするのかなど、実際に起こり得る場面を想定して家庭でよく話し合って最善策を決めておきます。いざというときに、子どもが行動できるよう指導を行うことが必要です。

### 子どもへの指導 (1)

#### ●インターホンが鳴ったとき

- ・基本的にはインターホンが鳴っても出ないようにする。誰かが訪ねてきても絶対に鍵を開けないようにする。
- ・どうしても応対が必要な場合も、モニター付のインターホンやドアスコープを覗いて相手を確認し、すぐにはドアを開けず様子を見て、ドアチェーンをかけて応対する。

一人留守番での  
子どもの安全



家庭と地域で協力し子どもの安全を確保しよう！

規準表〈23a〉 家庭で行う防犯対策の方法を理解している。

- ねらい □□ ①子どもの留守番の危険性について説明し、注意点を指導できる。  
□□ ②留守番中の適切な来客対応・電話対応について、注意点を指導できる。  
□□ ③不審電話などへの対処法を指導できる。  
□□ ④子どもが家に入る際の注意点を指導できる。

5

## 子どもへの指導 (2)

### ●電話が鳴ったとき

- ・家族からの電話は出かける前に電話する時間を決めておいたり、合図（3回鳴らして切るを2回繰り返すなど）を決めておいて、それ以外の電話には出ないようにする。
- ・ナンバーディスプレイがついている電話なら、出てもいい人を前もって決めておき、それ以外の電話には出ないようにする。
- ・留守電にしておいて、家の人に留守電に向かって呼びかけてもらう。声を聞いて家の人なら電話に出る。



## 保護者への指導

- ①子ども一人で留守番をさせるときは、時々自宅に電話を入れ安全を確認する。
- ②何かあったときに、電話で助けを求められるように、家の中の人の携帯電話の番号、祖父母や親戚の家、友達の家、学校、警察、消防署など大事な連絡先の電話番号を子どものすぐわかるところに書いておく。
- ③家の人があくなくなったらしか帰宅できないときは、室内の明かりをあらかじめつけておくと、不在を気づかれにくくなる。
- ④自宅周辺は整理整頓し、人が隠られるような死角をつくらないようにする。
- ⑤留守にする場合は、隣近所にひと声かけておくなど、普段から隣近所とのコミュニケーションをよくとり、子どもの安全について協力をお願いしておく。
- ⑥宅配便などは、できるだけ大人がいる時間に配達してもらうよう時間を指定する。

 **ビデオ教材** (ビデオ→ 家の中でも気をつけて)

※ビデオを見て子どもが一人留守番をするときの対応をまとめ、その指導の方法について考えてみましょう。